

# 英語学概論(第12講)

情報構造

# 第12講で学ぶこと

- ▶ 情報構造とは何か。
- ▶ 実際の英文を見て、情報構造がどのようなになっているか知ること。



# 情報構造とは

- ▶ 話し手が聞き手に話すときは、効果的な話しを、つまり効果的に情報が伝わるように文を配列する必要がある。
- ▶ 両者が共有している情報を旧情報(Old Information)として、話し手がそれに新しく付け加える情報を新情報(New Information)とする。旧情報に新情報を付け加えながら対話が進んでゆく。
- ▶ 英語の文の構成は、情報価値の低いもの（旧情報）から情報価値の高いもの（新情報）へと並んでいる。旧情報を表す部分は、前の文に出来るだけ近いところ、ふつうは主語のところに現れるのが最も自然である。それは、旧情報が前の文の内容を受けつぐものであるから、前の文に近いほど聞き手の記憶の負担が軽くなり、会話の流れがよくなる。
- ▶ The famous actor arrived in Tokyo this evening.
- ▶ (A) He was immediately besieged by his fans.
- ▶ (B) His fans immediately besieged him.

# 副詞句が新情報の場合

- ▶ 一般には、次の2つの文は同じ意味だと考えられている。しかし、情報構造の上からすると意味に違いがある。
- ▶ (a) When Taro came in, Hanako stood up. (太郎が入ってきたとき、花子は立ち上がった)
- ▶ (b) Hanako stood up, when Taro came in. (花子が立ち上がったのは、太郎が入ってきたときだ)
- ▶ (a)では、Hanako stood upの部分が新情報で、What did Hanako do when Taro came in? (太郎が入ってきたとき、花子はどうしたの) という疑問文の答えと考えられる。それに対して、(b)はwhen Taro came inが新情報で、When did Hanako stand up? (いつ花子は立ち上がったの) という疑問文の答えと考えられる。

# 旧情報の提示（話題化）

- ▶ 特に話題となっているものを示す語句が英語にある。as for, speaking of , talking about, regarding というような語句である。文頭にきて（話題化して）、情報の流れを旧→新という流れにする。
- ▶ 例↓
- ▶ Regarding the new employee, I think he is very lazy. (新入りに関しては、彼は怠け者だと思う)
- ▶ Speaking of food, did you like that restaurant you went to last night? (食べ物に関して言えば、昨晚行ったレストランは好きかい)
- ▶ Talking about students, do you know where's Tom? (学生と言えば、トムがどこにいるか知っているかい)

# 句動詞の情報構造

- ▶ 句動詞 call up, pick up, knock out は目的語が名詞である場合は、不変化詞の前にも後ろにも位置は可能である。
- ▶ I called up Tom. I called Tom up. ただし、Tomが最後尾に来る場合は、そこに焦点があてられるので、Tomに電話したことが強調される。Tomが前に来る場合は、電話したこと自体に焦点が合わされる。
- ▶ Tom をhim とした場合は、代名詞は旧情報なので、最後尾という焦点があてられる位置に来ることはない。I called him up. \*I called up him.

# there is 構文の情報構造

- ▶ (a) \*A book is on the desk.
- ▶ (b) The book is on the desk. (その本はその机の上にあります)
- ▶ there is構文は、情報構造がはっきりと現れる。たとえば、(a)は「机の上に一冊の本がある」という意味の英文でありが、不定冠詞をつけたa book (新情報) が冒頭に出てきて、やや不自然な印象を与える。一方、本がすでに話題になっている場合は(b)のようになる。(b)の意味は [先ほどから話題になっている]その本は机の上にあります) となる。前の文を受けて定冠詞が付いているthe book (旧情報) が先頭に来るのは、情報構造の点から望ましい。
- ▶ さて、(a)の文のように、a book (新情報) が先頭に来るのを避けるためには、導入部分として、(c)のように、there isから始めて、それに続けてa bookを持ってくるのが普通である。there is 構文は情報構造から求められた構文である。
- ▶ (c) There is a book on the desk. (机の上に本があります)

# 冠詞と不定冠詞


- ▶ 新情報には不定冠詞a/anがつくものが多く、旧情報には定冠詞theがつくものが多い。したがって、定冠詞のつく名詞が文頭におかれたり、不定冠詞がつく名詞が文末におかれる文は不自然な印象を与える。



- ▶ \*A book is on the desk.
- ▶ The book is on the desk. (その本は机の上にあります)
- ▶ There is a book on the desk. (本が机の上にあります)



# 文の主語となる名詞についての不定冠詞

- ▶ 文のはじめは旧情報が望ましいので、(a)のような文は自然である。一方、不定冠詞で始まる(b)や(c)のような文は不自然となります。
- ▶ (a) The box was empty. (その箱は空だった)
- ▶ (b) \*A box is empty. 
- ▶ (c) \*A teacher is tall.
- ▶ ただし、総称文と考えられる、A box is a container. (箱は入れ物です) は自然な文である。


# 分裂文(Cleft Sentence)

- ▶ 一般に、質問に対して、答えとなる部分が焦点を受けることになる。ただ、英文の構造上、焦点を受ける語を文末に持っていけないときは、分裂文（It強調構文）という形式で強調することが出来る。
- ▶ (a) Who gave you the book? (誰がその本を君にあげたの)
- ▶ (b) Taro gave me the book. (太郎がその本を私にくれたのです)
- ▶ (c) It was Taro who gave me the book. (その本を私にくれたのは、太郎です)
- ▶ (a)の質問に対しては、(b)のように答えると、答えの部分が先頭に来る。重要な答えの部分が文の先頭に来ては、情報の流れにはそぐわなくなる。その場合は、(c)のように分裂文の形式をとることで、先頭的位置から外すことができる。


# 文末焦点の原則

- ▶ 文末焦点
- ▶ 文末焦点の原理(principle of end-focus)とは、ある構成素が文末に移動して、そこに新情報の焦点が置かれることである。次の例文の下線部が該当する。ここでは、旧情報→新情報の流れとなる。
- ▶ (a) This poem was written by Wordsworth. (この詩はワーズワースによって書かれた)
- ▶ (b) What I want is money. (私がほしいのはお金だ)
- ▶ (c) Then came the second blow. (次にやってきたのは第2の打撃だ)

# 文末重点の原則

- ▶ 文末焦点の原則とは別に、英語には「重い」要素をできるだけ文末近くにおいて頭が重たくなることを避けようとする傾向がある。これを「文末重点の原則」(principle of end-weight)と呼ぶ。長い語句（重い要素）が先に出てくると記憶が覚えていられないので、文末に置くことは記憶の効果をあげるという点からも当然である。
- ▶ She visited him that very day. （彼女はまさにその日彼を訪ねた）
- ▶ She visited her best friend that very day. （彼女はまさにその日自分の最上の友人を訪ねた）
- ▶ She visited that very day an elderly and much beloved friend. （彼女はまさにその日に年配でとても敬愛している友人を訪ねた）

# 文末焦点と文末重点

- ▶ これら文末焦点（旧情報→新情報）と文末重点（軽い要素→重い要素）の2つの原則は矛盾するのではなくて、両者が一致する場合が多い。
- ▶ 旧情報を担う要素は代名詞化されたり省略されたりするが、一方で新情報を担う部分は重みがあって複雑になる傾向がある。 
- ▶ The day when you'll regret it will come.
- ▶ →The day will come when you'll regret it. “when you'll regret it” の部分が分離して後ろにゆくが、これはwhen 以下の部分が長くて重いので後ろに配置されたとも考えられるし、重要であるから後ろに配置されたとも考えられる。

# 5 文型と情報構造

- ▶ 英語の文は基本的には5文型にまとめられる。
- ▶ それらの構造を一つにまとめるとS+V+aと考えられる（aにはいろいろな要素が入る）。
- ▶ この基本構造が情報の流れに沿うように、変形されることがある。主語や目的語の部分が重たかったり情報度が高ければ、その部分は後置される。それには、さまざまな変形がある。
- ▶ 英文を理解するとは、5文型を理解して、その上で情報構造による変形を理解することが鍵だと言える。

# 課題

- ▶ 情報構造の視点から考えると、能動文と受動文はどのような点が異なるのか説明をなささい。
- ▶ because という接続詞は新情報を示す傾向があるが、すると、下の文ではどちらの文が望ましい形であるか説明せよ。
- ▶ (A) The shop is closed, because it is late.
- ▶ (B) Because it is late, the shop is closed.

